

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価計画

学校名	佐賀市立開成小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究を柱として、授業づくりの工夫やマイノートの取組により自分の考えを表現する力の向上につながっており、成果である。 ・今後も生徒指導において、共通理解の場を設け、チームで対応し、課題解決を図る。
2 学校教育目標	豊かな人間力をそなえ、自ら学ぶたくましい子どもの育成
3 本年度の重点目標	①学級経営の充実と生徒指導の徹底 ②特別支援教育の充実と学力向上の推進 ③心身の健康維持と自己有用感の

4 重点取組内容・成果指標

(1) 共通評価項目

評価項目	重点取組		具体的取組
	取組内容	成果指標 (数値目標)	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師75%以上	・教職員間でマイプランを共有し、PDCAサイクルにもとづいた取り組みを推進する。
	○校内研究の取り組みを柱とした主体的に学ぶ授業づくり	○単元テスト等で、思考・判断・表現75%以上をめざす。	・「児童生徒の学力向上対策 4つの取組」を踏まえ、「伝え合い」の向上を意識した授業づくりを行なう。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学校評価アンケート「心の教育」に関する項目で、肯定的に答える児童75%以上	・人権教室・人権学習会(平和・人権)・道徳等の授業を行い、人権尊重の感性を育てる。 ・参観日やフリー参観日において、ふれあい道徳の授業や人権学習等を感染予防に努めながら公開する。(地域連携)
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教員90%以上	・「〇月のわたし」や「ほっとタイム」の活用、「気になる子」の情報共有による、いじめの未然防止や早期対応・再発防止に努める。 ・管理職を交えた複数の職員による事実確認や指導を行う。
	◎児童の自己有用感を醸成し、夢や目標の実現に向けて、意欲的に取り組もうとするための教育活動の推進	○学校評価アンケートで「夢や目標をもっている」に肯定的な回答をした児童75%以上	・キャリアパスポートを活用し、見通しをもって活動することにより、自己の成長を振り返る。
●健康・体づくり	①「運動習慣の改善や定着化」	①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒60%以上	・縦割り遊びや体育科の体づくり運動の中で、多様な遊びやスポーツチャレンジを紹介し、教師も子どもと一緒に外で遊ぶことを推奨し、運動習慣の向上を目指す。
	②「望ましい生活習慣の形成」	②22時までに寝る児童が80%以上	・毎月初めに生活チェック週間を設けて、朝の時間に自分でチェックし、保護者、担任も確認することで、生活を振り返り、改善をめざす。
	③「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	③「健康に食事は大切である」と考える児童生徒80%以上	・給食時間の電子黒板の活用や献立を通した食に関する指導を行う。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●時間外在校等時間の上限(1か月45時間)以上が年間6か月を超えないようにする。守ることができたと回答する職員を80%以上にする。	・定時退勤日を金曜日に設定する。 ・退勤目標時刻19:00から逆算し、放課後の時間を効率的に使って業務にあたることを意識する。
	○ICT利活用、行事、会議の精選	○職員会議や研修等にかかる上限時間を80分とし、遵守する。 ○各部から1つ以上の改善案を提言する。	・事前資料配付、電子掲示板等を活用し、提案の簡略化を図る。 ・3部会で削減の視点で話し合い、「例年通り」を改善する。

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目

評価項目	重点取組		具体的取組
	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	
○生徒指導と学級経営	○凡事徹底による規律ある生徒指導の確立と支持的風土のある学級づくり	○授業開始時に着席して、学習道具の準備ができている児童90%以上をめざす。 ○「開成スタイル」を実行していると答える児童75%以上をめざす。	・「開成スタイル」を提示し、全職員共通理解のもと、具体的な行動目標を挙げ、凡事徹底を図る。 ・「友達」「職員」「家族」との和を深める。
○特別支援教育の充実	○特別支援学級における効果的な指導や通常学級在籍で個別支援を要する児童への支援	○意欲的に学習をすることができたかどうかを児童に4件法で自己評価させ、3.0を目指す。1単位時間や単元等で自己評価させることで、実態を確認する。	・主に国語科と算数科において、意欲的に学習できるように、個々の児童の特性に合わせて支援する。特別支援学級支援員・生活指導員やICT等も活用する。
○地域連携教育の発展	○地域のひと・もの・ことを取り込んだ教育課程とふるさとのよさを実感する教育の推進	○学校評価アンケートで、「学校や地域のよさが分かる」と答える児童70%以上をめざす。	・学級通信、学校便り、メール配信、HP掲載等により、情報発信を積極的に行う。 ・地域との連携により、新学習指導要領に沿った教育活動を推進する。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・
--------------------	---